国家公務員総合職
就活の基礎知識

国家総合職の採用プロセスは公務員試験＋官庁訪問の2ステップ

試験
@秋＆春

国家総合職の内定を勝ち取るためには、試験合格と官庁訪問突破の2つのステップが必要です。まず試験についてですが、最も重要なのは自分に合った試験区分を見つけることです。開催時期や科目、志望省庁の採用枠などから総合的に判断しましょう。また、TOEICなどの英語資格試験による加点制度もあるため、下調べや準備が必要です。試験に合格すると、採用候補者名簿(※)に名前と順位が登録され、官庁訪問への切符を手にすることができます。

試験が終わると、次は官庁訪問です。官庁訪問は、民間就活で例えるならば、業務説明会と面接が混ざったものと言えるでしょう。約2週間で集中的に希望省庁の方々と面接を行い、省庁への理解を深めながら選考過程を進みます。そして全過程を突破した後には、晴れて内々定となります。

官庁訪問@夏

※ 採用候補者名簿(試験の合格状態)は教養区分以外の区分は5年間、教養区分は6年6ヶ月間有効です。なお、2022年度までに合格した人は、区分を問わず、3年間有効です。

試験一覧

Tap

	対象	時期	1 次試験	2次試験
★ 教養	大卒	10月	①基礎能力 ②総合論文	①企画提案 ②政策課題討議 ③人物
法律 経済 NEW! 政治･国際・人文 行政 工学 化学･生物･薬学 農業科学･水産 森林・自然環境 数理科学･物理･地球科学 人間科学 農業・農村工学 デジタル	大卒 院卒 共通	3月(1次) 4,5月(2次) 2024年度の春試験から、1次試験は3月、2次試験は4,5月に行われることになっています。	①基礎能力 ②専門区分 (多肢選択)	①専門区分(記述) ②総合論文(大卒) or 政策課題討議(院卒) ③人物

NEW!
2023年度まで政治・国際区分として実施されていた区分は、2024年度から政治・国際・人文区分に改編されます。これにより、思想・哲学、歴史学、文学・芸術、人文地理学・文化人類学といった分野が新たに出題され、人文系の専攻者が自らの専門を選んで受験できるようになります。

※ このほかに、司法試験合格者が受験できる法務区分があります。法務区分は、司法試験日程の変更に伴い2024年から春試験として実施される予定です。

試験対策の前に

過去問入手方法

概要

試験勉強を進めていく上で、過去問の活用は非常に重要である。
例えば、
①　試験対策の初期で試験の全体像をつかむ＆対策の方針を考える
②　定期的に過去問を解いて知識の定着＆対策の方針の修正
③　試験直前に解いて時間配分など試験慣れする、など…
国家総合職の受験を考えている人はとりあえず過去問を入手しよう！
過去問は、人事院へ情報公開の手続きをすることで見ることができる。（有料）

入手方法

１．人事院ＨＰから行政文書開示請求書をダウンロード
２．必要事項を記入し、「〒100-8913 東京都千代田区霞が関1-2-3 人事院人事行政情報センター 宛」に郵送
３．30日以内に「行政文書の開示の実施方法等申出書」が届く。必要事項を記入し、指示された住所に郵送
４．データの入ったCD-Rが届く
☆請求してから届くまで時間がかかるので、早めに請求しよう。

試験区分の選び方

概要

専攻と直結する試験区分がある人はその区分がおすすめ。
適当な専門区分がなく迷う人は教養区分が無難ではあるが、その他の区分でも十分合格できる。

アドバイス

- **試験区分選びの注意点**

  経産省では全ての区分から採用をするが、他の省庁ではその限りではないのでその点は注意して試験区分を選ぶこと。
  また募集要項の採用予定数を大きく超える数の最終合格者が出るので必要以上に構える必要はない。詳しくは募集要項、試験実施状況をチェック。

- **教養区分**

  専攻に直結した試験区分がない人にとっては、特別な専門知識が問われない教養区分は受験しやすい区分である。実際、医学から歴史学まで幅広い専攻の学生が合格している。もちろん、法学部や経済学部など専門の区分がある学生も多く受験し合格している。また、難易度は国家総合職試験の中でも高いと言える。
  とはいえ、教養区分に不合格であっても、春に他の区分でもう一度チャレンジでき、また春の試験内容と重なる部分もあり勉強になるので、自信のない人でもまずは受けてみるのがおすすめ。

- **専門区分**

  国家総合職は難関試験の１つではあり、実際単純な受験者に対する最終合格者の倍率では10倍を超える区分もある。しかし、試験区分によってばらつきはあるが、一般論として、
  ① 得点の配分は専門試験が8/15、それ以外が7/15で専門性が求められるのは半分ほど
  ② 鬼門は一次試験の基礎能力試験と専門試験（多肢選択式）。特に大卒区分では一次試験の倍率が高い
  ③ 一次試験合格者の7割程度しか二次試験を受験しない。また二次試験受験者に対しては7割以上が最終合格している

  要するに、専門知識が不足していてもほかで十分挽回でき、特に高度な専門性が求められる専門試験(記述式)は得点の割合ほどには試験結果を左右しない。上手く対策ができればゼロから独学でも十分に合格を狙える。得意かどうかや興味の有無、勉強のしやすさ(参考書の充実度など)などを考えながら自分にとって一番良い試験区分を選ぼう！
  なお、試験内容の概要は人事院が公開しており、試験問題例も公開されている。試験区分に悩む人はとりあえずのぞいてみよう。

試験対策について

基礎能力試験（全区分共通）

まず、複数区分に共通の4科目を解説！
区分ごとはp.4から

概要

知能分野（文章理解/数的処理/判断推理）
知識分野（自然科学/人文科学/社会科学/情報）NEW!

アドバイス

- 勉強する科目の選択と集中

センター試験のような知識分野をはじめ、とにかく試験範囲が広いため、勉強する科目の選択と集中が必要。大学受験などで勉強したことがない科目を「捨て科目」にする人が多く、多くの場合文系は自然科学、理系は人文科学の優先度が低め。一方、受験生の多くが得点源にしているのが以下の3つである。これらは事前の勉強はもちろん、当日もあまり時間をかけずに解きたい部分だ。

① 知能分野の文章理解(国語や英語):難易度が低い

② 人文科学の思想:出題範囲が狭いため勉強のコスパが良い

③ 数的処理の資料解釈:対策によって確実な得点が可能

- 数的処理は時間との戦い

数的処理は1問あたりにかかる時間が長いため、全問解き切るのは難しい。そのため、本番では時間への意識と問題の取捨選択が大切になる
判断推理の問題は、問題を読むと同時に選択肢にも目を通そう。解答候補が絞られ楽に解けるようになることがある。

- NEW! 2024年度から、知識分野は時事問題を中心に出題。情報分野も新たに追加

2024年度から、知識分野は自然科学・人文科学・社会科学について、時事問題を中心に出題される予定である。また、新たに情報に関する問題も追加される。人事院のＨＰで問題例を確認しておこう。（参考：https://www.jinji.go.jp/saiyo/siken/mondairei/00_00_1.pdf）

参考書

『スーパー過去問ゼミ』、『速攻の時事』

人物試験（全区分共通）

概要

省庁の職員の方3名(中央が人事院、左右が各府省庁の職員)との約20分の面接。
面接カードをもとに、3人がそれぞれ１つのトピックにつき3、４問の質問をする。

アドバイス

- 人物試験はコンピテンシー面接

コンピテンシー面接では、経験･エピソードからその人の行動特性を読み解き、職務への適性を評価する。どのような問題意識を持って実行に移し成果を出したか、その過程での失敗や苦労、他者と協力した経験など具体的な経験を面接カードに書こう。

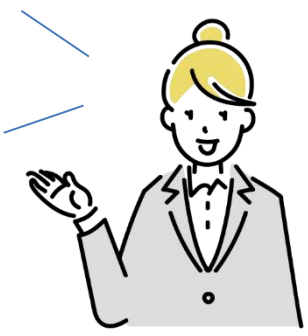
- 面接カードで勝負は決まる

試験は面接カードに沿って行われ、奇をてらった質問は少ない。したがって質問の想定はある程度可能であり、面接カードは質問してほしいエピソードに誘導するイメージで書くとよい。曖昧な言葉や表現には鋭い質問が飛んでくるため、よく推敲しよう。

対策

先輩やキャリアセンターに頼み、志望動機や面接カードの内容、話し方のイメージを練り上げる。 または、民間就活等で面接に慣れると良い。

リラックスして臨もう！



政策論文試験　(大卒共通)

概要

秋試験(教養区分)と春試験(専門区分)で内容はほぼ同じ(設問数が秋は2問、春は1問)。1 問あたり約2時間で、1,500~1,800字を記述する。

アドバイス

- **論文対策に時間を割きすぎない**

  政策論文は配点が高いが点差はつきにくく、かけた時間と点数は比例しない。そのため、政策論文対策に時間をかけず、その他の科目の勉強に時間を割く人が多い。ただし最低限は構成にも気を遣い、字数を埋め、最後まで論理的な文章を書けるようにしておこう。 最初から本文を書き始めずに、まずは要点を簡潔に書き出して文章の流れを整理するのがおすすめ。時間は意外ときついので、時間を測って書く練習を少なくとも1、2回はした方がよい。

- **与えられている資料の示唆を組み込む**

  設問と参考資料がいくつか与えられる。それぞれが回答すべき方向性のヒントになっているので、上手く活用しよう。ただし、全ての資料に言及する必要はないようだ。

対策

予備校の回答集を入手し、どんな感じで書けばいいのか見当をつけるとよいが、テンプレ化しやすい側面もある。ありがちで退屈な回答と思われてしまうと平均以上の点数は期待できない。日頃から新聞をコラム等も含めて読んでおくと、頭の中に書くネタが蓄積されて役立つ。経産省の説明会で聞いた内容も役立ったり…！また、採点官は少人数で大量の答案を採点しているので、興味深いと思わせられると高得点を獲得しやすいという噂。

政策課題討議試験　(大卒 秋試験･院卒 春試験共通)

概要

グループディスカッション。与えられた課題に対する２つの解決策A、Bのうち、どちらがより望ましい選択肢かを議論する。具体的には、以下の3段階に分けられる。
① 解決策A、Bに対する自分の主張を配られるA4の紙（レジュメ）にまとめる。
② レジュメを基に各人が主張を簡潔に述べた後、グループディスカッションを行う。
③ 最後に、自分の最終的な意見や議論の感想等を発表する。

アドバイス

- **レジュメや議論の構成を考えておく**

  レジュメ作成も議論も、時間がかなり限られている。レジュメの書き方や議論の進め方に関しては、練習を通じて自分なりのひな形を持っておこう。

- **ポイントは論理的な意見を述べることと、周りの意見を活かすこと**

  自分の意見を通すことが勝ちではない。協調してメリット・デメリットを整理し、最善策を探ることが求められている。そのため、自分の意見を明確にするのはもちろん、人の話を引き出したり傾聴したりする姿勢を忘れないことが大切。最終的には自分の意見を変えても構わないので、ディベートにならないよう建設的な議論を心がけよう。

対策

民間就活のグループディスカッションや、経産省等のワークショップで議論する経験が役に立つ。また、積極的に友達同士で練習すると良い。

POINTS

1. まずは人事院の試験情報ページをチェック！

   試験日程/ 時間/ 配点/ 合格点等、勉強を始めるにあたっての重要情報が満載だ。

2. しっかり計画を立てて勉強しよう！

   学業や部活動・サークル、民間の就活などいろいろなものと両立しながら勉強するには早めに計画を立てて、効率よく勉強するのが大切だ。
   繰り返しになるが、過去問はそのためにも重要であり、また確保するには時間がかかる場合もある。
   なるべく早めに動き出して、余裕を持って試験対策ができるようにしよう。

これで合格すると
民間併願しやすい！

教養区分

概要

上述の基礎能力/政策論文/人物/政策課題討議以外の、企画提案試験について記述する。企画提案試験では与えられた課題に対して政策を立案し、レジュメにまとめる(ここまでは政策論文試験とほぼ同じ形式)。作成したレジュメのコピーが試験官に渡され、それを基にプレゼンテーションと質疑応答を行う。過去の白書などの資料がが事前に問題の出題範囲として指定される。昨年度は、例えば『令和元年版　子供・若者白書』から「長期化するひきこもりの実態」などが指定されたため、この範囲で出題されそうな問題を予想･対策した。

アドバイス

- **重要なのは知識量よりも論理性**

  企画提案試験では事前知識は問われないため、資料の暗記に努めるのではなく、そこに書かれている現状の課題は何か、原因はどこかといった自身の考えを整理しておくことが大切。

- **現行政策に寄せる必要はない**

  必ずしも資料に書かれてるような今の政策に合わせる必要はない。質疑応答で厳しく詰められても、自身の政策に至る論理や意見が論理性を説明できれば大丈夫。

対策

まずは資料に一通り目を通し、概要を把握する。その上で、①自分なりの理想状態（目標）を設定し、②現状を整理した上で、③理想と現状の間の乖離（＝ボトルネック）を特定し、④それに対する施策を複数考案する、という流れが重要だ。
また、積極的に友人や先輩などとの模擬面接を行っておきたい。
提出するレジュメだけではなく、プレゼンの質や質疑等々での受け答えも重要なので、レジュメが書き終わったら終わりではなく、待ち時間を使ってどのように説明するか、どのような質問が来そうかなど準備をしておこう。

※ 例年冬に、教養区分合格者向けの官庁訪問を実施しています。

法律区分

		1 次試験(多肢選択)	2次試験(記述)
概要	必須	行政法/民法/憲法(31問)	憲法/行政法/民法/国際法/公共政策から3科目選択
	選択	商法/刑法/労働法/国際法 /経済学･財政学 から9問を選択	
アドバイス		● **必修:過去問を通じて判例理解** 『スーパー過去問ゼミ』を繰り返し解き、大体のパターンをつかむ。判例の正確な理解が求められるので、判例集を何度も読み込もう。六法の持込みができないので、重要な条文は覚えるようにする。 憲法 ： 判例の結論だけでなく、なぜそうなったかも問われる。 民法 ： 似ている制度の違いをきちんとおさえる。 行政法 : 行手法など短い条文の素読が大切。 ● **選択:各科目のポイント！** 商法 : 分量が多いが、参考書等は充実している。 刑法 ： パターンが多いが、一通り過去問をやれば問題ない。 労働法 ： 一番のねらい目。パターンが限られており過去問を10年分やれば、本番も解ける。 国際法 : 受験＋α レベルの英語力が必要。 財政学 : 数値を覚えておけば解ける問題が多い。	● **記述練習、暗記は効率よく** 多くの人が憲法/民法/行政法を選択。フルで法的三段論法を展開すると字数が不足するので、答案を書く前に一度答案構成をしてみて、どの論点にどれくらいの字数を使うのかあたりをつけてから書くとよい。また、六法は持ち込めないので、よく使う条文の条 番号と内容を暗記しよう。 憲法 ： 近年は人権分野以外からの出題が多く、一見何を書いたらよいか分からない問題が出ることがある。このような場合、唯一無二の正解を考える時間はないので、他の受験生が書くであろうことは自分も絶対に落とさないという姿勢が大切である。 民法 ： 事例から正しい論点にたどりつくためには、要件の違いを抑えておくことが重要である。 行政法 ： 問題文が長いので、時間配分に注意。「処分性」の定義など覚えるべき判例のフレーズが長いため、正確に暗記するとともに、予めどれくらいの字数を割くのか把握しておくとよい。
参考書		『国家総合職専門試験過去問500』 各科目教科書、判例集(判例100 選) 『スーパー過去問ゼミ』 『郷原豊茂の民法過去問まるごと講義生中継』	独学勢は市販の予備校問題集を使っている人が多い。 『TAC 論文問題集120』: 重要度が分かれていて、重要論点が分かりやす い。

経済区分

	1 次試験(多肢選択)		2次試験(記述)	
概要	必須	経済理論/経済事情(時事)/財政学･経済政策/統計学･計量経済学(31問)	必須	経済理論(ミクロ・マクロ各1問)
	選択	経済史･経済事情/国際経済学/経営学/憲法/民法から9問を選択	選択	財政学/経済政策/公共政策から2問を選択
アドバイス		● コスパ◎の経済事情 時事は基礎能力試験でも出題されるため勉強のコスパが高く、暗記しておくことがおすすめ。『速攻の時事』の財政や経済政策のページを特に重点的に暗記し、余裕があれば白書を読もう。 ● 経済理論が解ける実力を 経済理論は大学のミクロ経済学、マクロ経済学を理解できれば解くことができる。他の分野の基本でもあるため経済理論が解けるようになることはとても重要。パターンは決まっていて、過去問や『経済学ゼミナール上級編』を解くのがおすすめ。 ● 暗記は裏切らない 暗記で対応できる分野の出来が高得点への分岐点となる。経済史/経営学/憲法など暗記が必要な科目が意外と多いため、時間があるor経済理論が不安な人はコツコツと暗記するのがおすすめ。		● 問題作成者を知る 2次試験の試験委員(問題作成者)は毎年公表されているので、試験委員の著書を読む。試験委員は事前に官報でチェック。 ● 培った知識を記述する練習を 財政学は知識タイプの問題であれば知ってることをとにかくたくさん吐き出すようにし、計算タイプの問題は選択で勉強したことを記述に書き起こす練習をしていた。本番は部分点狙いでとにかく書くことを意識した。 ● 模試を受けて実力チェック 予備校に通っていなくても模試は受験でき、丁寧な添削をしてもらえるので受験することをおすすめする。	
参考書		『スーパー過去問ゼミ』 『公務員試験 最初でつまずかない経済学(ミクロ/マクロ)』 『経済学ゼミナール上級編』 『行政5科目まるごとパスワードneo』(選択科目)		試験委員の教授の方々の著書 土居丈朗『公共経済学』 土居丈朗『財政学』 神取道宏『ミクロ経済学の力』 二神孝一・堀敬一『マクロ経済学』

NEW！ 政治･国際･人文区分

☆コースＡとコースＢに分かれる。
✔コースＡ：従来の「政治・国際区分」と同じ科目を出題
✔コースＢ：人文系の科目も出題

	1 次試験(多肢選択)		2次試験(記述)
概要	必須	コースＡ・Ｂ共通：政治学/国際関係/憲法(25問) コースＢの場合、上に加えて：思想・哲学/歴史学/文学・芸術/人文地理学・文化人類学/心理学・教育学・社会学（20問）	コースＡ：政治学/行政学/憲法/国際関係A,B / 国際法/公共政策A,Bから3問選択 コースＢ：思想・哲学/歴史学/文学・芸術から2問選択
	選択	コースＡ：行政法/民法/経済学/財政学/経済政策/行政学/国際法/国際事情から15問選択 コースＢ：思想・哲学/歴史学/文学・芸術/人文地理学・文化人類学/心理学/教育学/社会学から15問選択	
アドバイス		● 新設の区分。人事院ＨＰを要チェック この区分は、従来の政治・国際区分と同じ科目を出題するコースＡと、人文系の科目も出題するコースＢに分かれる。新設の区分のため、特にコースＢを選択する受験生は人事院ＨＰで問題例を確認しておこう。 ● 暗記が得意な人にはおすすめの区分 この区分はとにかく暗記が多い。おすすめの学習の流れは「全体的な概要の暗記→細部の暗記」である。まずは概要の暗記を目標にス一過（入手できれば総合職の過去問のみの過去問集も）を使用し暗記していくのが良い。 ● 選択科目次第では英語力が重要 政治学/国際関係/国際法/国際事情では、英文の 問題が出題される。大学受験レベルの読解力＋基礎的な専門用語の語彙が必要。	● 重要概念と論点への理解が試される 各科目の重要概念や論点を把握しているかを問う問題が多く、実質的には暗記量が勝負。1次対策 範囲内の学習内容を再構成するだけで、合格ラインに達することは十分可能。また、一次試験と同様に英文問題の出題があるため、大学受験レベルの読解力＋基礎的な専門用語の語彙力も重要。官報で試験委員をチェックし、その先生の著書を借りて読み、傾向や出やすい分野を探ると良い。過去問の問題を参考書を熟読しつつ再現し、必要知識のインプットと、答案構成を繰り返す勉強法が有効。 ● 得点源となる科目の取捨選択が重要 あらかじめ科目を絞って勉強した上で、当日解きやすい問題を選ぶと効率的に得点できる。どの教科も負担に大きな差は無いと思われるので、自分に合った科目の選択の取捨選択が重要。公共政策は、日本の社会課題や政策ツールに関する基礎知識をベースに、論理的な文章を構成していけば高得点が望めるのでおすすめ。当日の保険として記述できる用意をしておくと安心。
参考書		『過去問500』 『スーパー過去問ゼミ』	国際関係A,B:ジョセフ･ナイ『国際紛争』 政治学:久米郁男『政治学』

行政区分

※行政区分の政治･国際系は、2024年度より政治･国際･人文系に改編される。

	1 次試験(多肢選択)	2次試験(記述)
概要	法律系/経済系/政治･国際･人文系（※）のいずれかを選択 必須問題･選択問題は系統により異なる	14科目から3科目を選択 (国際関係or公共政策を選択の場合2-3科目)
アドバイス	● 試験内容は学部のものと基本的に同じ 法律→p.5 経済/政治･国際･人文→p.6 ● おすすめの勉強サイクル ①スピード解説シリーズ: 大まかな考え方をつかむ。他の参考書でもよい。 ②過去問 : 問題の傾向を把握 ③スー過去 : スピード解説シリーズの応用、過去問で苦手なところの補強 ④過去問 : 繰り返し	● 定型文は書き出して暗記(法律系) 定型文となる文章は書き出して暗記。問題をパターン化して理解することができ、初見の問題でも応用を利かせて解ける。パターンを見出す作業では、論文基本問題シリーズが一番良かった。 ● 基本は過去問(経済系) 過去問を解くのが基本で、抜けていた部分は教科書･問題集などで補うとよい。 2月頭の官報に試験委員の先生が誰なのかが掲載されるので、それを確認し、その先生の著書を何度も読み、著書の章末問題などを解くのがおすすめ。
参考書	『スピード解説』 『図説日本の財政』(財政学選択) 『経済事情・財政事情オリジナル完全予想問題集』(公務員試験必勝倶楽部のサイトにて購入可) 『スーパー過去問ゼミ』 『速攻の時事』 『郷原豊茂の民法過去問まるごと講義生中継』 『新谷一郎の行政法まるごと講義生中継』	〈法律〉 『論文基本問題』 ↑ 廃版だがAmazonで購入可能 『新･伊藤塾試験対策問題集論文①』 宍戸常寿『憲法演習ノート: 憲法を楽しむ21問』 曽和俊文ほか『事例研究行政法』

工学区分

		1 次試験(多肢選択)	2次試験(記述)
概要	必須	[工学に関する基礎] (20問) 例年9問数学+11問物理	27科目から2科目2問を選択 (建築設計or都市設計を選択の場合のみ1 題)
	選択	[専門科目](20問) 27科目から4-6科目を選択して回答	
アドバイス		● ひたすら過去問を解き、受験レベルを復習 [専門科目]では自身の専門+α を対策する人が多いが、意外と無対策の科目でも 1-2問解けたり する(特に基礎〇〇系。それを積み重ねて合格した者もいる)。リスクヘッジも含め、6 科目くらい勉強しておくとよい。大学受験の知識で解ける小問もあるので少しの勉強でも点数が変わる。自分の専門については院試勉強で使っていた教材を使いまわすので十分だろう。 選択問題のうち9問を自分の専攻内で、10問を自分の選考外の科目で解いた人がいるらしい…。 ● おすすめの選択科目一覧 ①機械力学/熱力学/電磁気 必須の[工学に関する知識] の延長戦上。 ②基礎化学/工学基礎実験 大学受験レベルで対応可。ただ工学基礎実験は基礎化学に比べて範囲が広く、博打要素有。 ③環境工学(土木)･衛生工学 ある程度の一般常識で解けるものが多い。	● 定期試験や院試と同様に、時間をかけて勉強 ひたすら過去問を解き、必要に応じて参考書や大 学(院)の講義資料を参照。点数配分が重いうえ、 理系の場合は勉強すれば高得点を狙えるので、基 礎能力試験より時間をとった方がよいだろう。可能であれば計算問題と記述問題を1つずつ選択すると計算に十分な時間を使うことができ、おすすめ。 ● 本命の2科目＋1科目を対策 本番の問題を見て解答科目を決められるよう3科目以上選んで対策する。 ● おすすめの選択科目一覧 ①環境工学(土木)･衛生工学/信頼性工学 専門科目でない人でも勉強しやすい。 ②熱力学 理系学部なら、必須の教養科目で既習の場合が多い。
参考書		『技術系スーパー過去問ゼミ工学に関する基礎』 『上･中級公務員試験 技術系よく出るシリーズ』	各科目の教科書･参考書･大学での講義資料 資格試験の過去問･参考書 (第3種電気主任技術者/技術士等)

化学･生物･薬学区分

	1 次試験(多肢選択)		2次試験(記述)
概要	必須	基礎数学/基礎物理/基礎化学/基礎生物学(10問)	19問から2問を選択 物理化学/無機化学/有機化学/生化学/分子生物学など
	選択	16 科目から5-6科目選択(30問)	
アドバイス		● 得点プランを考える 最も重要なのは過去問を把握すること。「薬学、これでOK!」のサイトに数年分の過去問が掲載されているので、まずはこれを見ながら、自分ならどこで何点取れるかを想定することが重要。院卒なら6割5分程度取れればまずOK。選択必須問題が前半にあるので、そこで何点取れそうかも考えておくこと。 ● 効率よく勉強する 過去問演習して知識を補充する、高校～大学の問題集や講義ノートを見返して必要な知識を補充すること。理系学生はあまり時間が無いと思うので、最短で必要な勉強を進めるようにするといいだろう。	● 得点プランと過去問分析 2次もまずこれを行うことが重要。分野ごとに分かれた大問を例年2題、選択して解答する形式だが、実際は大問の中に中問が2個以上含まれており、いろいろな専門性の知識が問われるので要注意。目標点数は6割でOK。 ● 試験作問者をチェック 例年試験作問者の一覧が公開されるので、自分が解きたい分野を担当する教授の専門領域を確認し、狙いを絞って勉強するのもおすすめ。 ● 日々の研究での勉強を大事に 実験技術関連の問題や基本的な原理原則は、普段の研究活動でも身につく部分が多いため、研究室生活での日々の勉強をしっかりこなすことで、2次試験で解ける問題も自然と増えていく。
参考書	『技術系スーパー過去問ゼミ』 大学受験の生物の問題集 図説や図解の詳しい参考書		

	教科書	問題集
有機化学	マクマリ / ウォーレン	有機化学演習/基本から大学院入試まで演習で学ぶ有機化学演習
無機化学	シュライバー アトキンス	演習無機化学/基本から大学院入試まで無機化学演習

農業科学･水産区分

	1次試験(多肢選択)		2次試験(記述)
概要	必須	[生物資源に関する基礎] 生物資源科学/食糧事情/統計学(5問)	20科目から2科目選択 作物学/園芸学/育種遺伝学など
	選択	農業科学系 or 水産系を選択(各10問) ＆ 23科目から5科目選択(25問)	
アドバイス		● 過去問と大学の授業をしっかりと 過去問を取り寄せて、大学の教科書と照らし合わせながら解いていった。一部、大学の授業をそのまま活かせた。過去問は6年分取り組んだ。ひたすら解いて関連知識も教科書で確認した。 ● 出題傾向をつかみ、効率よく勉強 科目数が多かったため、試験に出やすいところがまとまっているLECの問題集を2～3周した。出題傾向を分析してパターンをつかんでから、知識を深めていく。 ● 白書も要チェック！ 『食料･農業･農村白書』を読んでいれば、確実に取れる問題が存在する。	● ひたすら過去問！間違え直しに力を入れる 過去問は6年分取り組んだ。過去問の中でも被っている部分が多かったので、過去問は絶対に解いておくべき。論文を書いたら、先輩や同期に添削してもらおう。また間違えた問題については、白書やネットから集めた情報をまとめ、二度と間違えないようにしっかり理解する。明らかに有名な教科書から出題したような問題も存在するので、過去問と教科書を照らし合わせて 、対策の仕方を考えるのもおすすめ。院卒の場合、院試の勉強を復習するだけでも効果的。
参考書	『スーパー過去問ゼミ』シリーズ 『食料･農業･農村白書』『水産白書』 各科目の大学で使う基本的な教科書、大学の講義資料		

森林・自然環境区分

	1次試験(選択)		2次試験(記述)
概要	必須	[森林・自然環境に関する基礎] 森林・自然環境に関する基礎科学/現状と基本政策/機能・効用に関する基礎の13問	4科目(各3問)から1科目選択 2問解答
	選択	12科目(各9問)から3科目選択 計27問解答	
アドバイス	● とにかく過去問を解く！ 過去問は取り寄せに時間がかかるので、早めに取り寄せる。林業系が専門ではなかったが、5,6年分の過去問を解くと出題傾向が把握でき、覚えるべきポイントがつかめた。 森林関連以外では、生物/地学の知識が問われるのでセンター試験用の参考書を復習したり、YouTubeの地学基礎動画で勉強したりした。 1問1ページずつノートに貼って関連知識をまとめ、一通り解き終えた後は何周も復習し定着させた。(直前3~4週間くらい？) ● 選択分野に絞って勉強 必須問題の基礎科学としてよく出る「森林環境科学、森林資源科学」の選択がおすすめ。必須問題・選択問題両方の勉強ができる。「砂防学基礎」も必須で数問は出るので、勉強すると効率的。		● 過去問の記述を実際に書く 1次試験対策でつけた知識を忘れないようにしておけば、特段問題はない。知識は必要だが、現代文的な要素も強いので、設問に合わせて知識を書き出す練習は必要。 書いた後は、『森林・林業白書』(ネットで見られるが、最新版は紙媒体で購入しておくのがおすすめ)やノートを見返す、ネットで調べる等で知識を補充する。(それをノートに追記) ● 選択科目は決めておく 専門ど真ん中の科目があるのでなければ、「森林科学に関する基礎」がよいと思う。1次の必須問題を勉強していれば解ける。
参考書	『森林・林業白書』 『森林・林業実務必携』		

数理科学・物理・地球科学区分

	1次試験(選択)	2次試験(記述)
概要	＊115題のうち40題解答 ＊必須 ・5題→基礎数学・情報数学 ＊選択 ・10題[次の選択（各10題）A,Bから1つを選択] →選択A（数理科学系：線形代数、解析、確率・統計） →選択B（物理・地球科学系：基礎物理、地球科学） ・25題[選択]→17科目90題のうち任意の計25題解答	＊選択 ・2題[次の科目から15題出題、そのうち任意の2題を解答] →5題：代数、幾何、解析、確率・統計 →1題：情報科学 →1題：数学モデル →1題：経営工学（経営数学・生産管理・品質管理） →3題：古典物理学、現代物理学（物性物理学含む） →2題：地球物理学 →2題：地質学 注：同じ科目から2題選択可
アドバイス	● とにかく過去問を 過去問を5～7年分取り寄せ、ひたすら解きまくった。解くと決めた分野の問題を印刷しファイルに閉じ、1回できなかった問題をチェックしてできるようになるまで繰り返した。一次試験（択一式）の必須5題は過去問で傾向をつかむことができる。これらの問題は高校レベルのものも出題されているため、物理セミナーなど大学受験に用いた参考書も役に立つ。選択問題のレベル的には大学の教科書や大学の講義・テストレベルものが多く出題されている。そのため大学の講義資料や教科書、ネットを参考にしながら過去問を解きまくり対策していた。全体的に分野が幅広いため1つの分野にマトを絞りつつ（地学なら地学など）、他の分野の選択問題で解けそうな問題（高校で習ったことある！など）を5問くらい持つのが良いかもしれない。 ● 自分だけの模範解答集を どの区分も然りだと思うが、答えは番号でしか与えられていない。そこでノートの見開き1ページの左上に問題を貼り付け、その答え（番号）に至る過程を書き記した。またその際ポイントとなる公式や解き方の工夫、新しく身につけた知識も添えてオリジナルの模範解答集を作成し、問題構造を把握するようにしていた。	● 左（一次試験のアドバイス）にならえ！ 基本的に過去問を解きまくる&オリジナルの模範解答集を作成、という流れで対策を行っていた。一次試験の対策をしっかりとしておくことである程度二次試験の対策になる。大きく数理系・物理系・地学系の3つの分野から構成されているが、全く別の区分として捉えたほうがよく、1つの分野に絞らないとよほど国家公務員試験好きでないと無理ゲー。この3分野によって計算が多くなるのか、記述が多くなるのか異なる。 ● あらゆるものを総動員 大学の講義資料、教科書・一次試験の対策資料・ネット・辞典・大学の先生などあらゆるものを総動員して自分なりの模範解答を作り問題の傾向をつかむこと、実際の試験で応用できそうな知識集めをしていた。
参考書	・大学受験に用いた物理や地学の参考書、大学レベルの教科書 ※マイナーな試験区分でもあり、過去問の解答もないため、分からない問題は大学の先生に質問したり、Yahoo! 知恵袋に投稿したりした（意外と回答してくれる人がいました。ありがとうございます。）	

農業･農村工学区分

		1次試験(選択)	2次試験(記述)
概要	必須	［農業・農村工学に関する基礎］(22問)	9科目から2科目を選択
	選択	9科目から3科目選択(18問)	
アドバイス		● 全分野満遍なく基礎知識をつける 必須問題は非常に基礎的な内容。しかし全分野満遍なく出題されるため、一通り基礎的な知識をつけておく必要がある。 ● 取捨選択して得意分野を作り、4-5科目おさえる 9分野から問題を選択できるため、あくまで基礎的学力があれば十分。そのため、全分野一通り問題を解いてみて、比較的苦手意識のない分野や、大学の講義等で少し聞いたことがある分野を3～5分野選び、集中的に勉強することを勧める。あまり絞りすぎると、選択していた分野の問題の難易度があまりにも高い時に対応が困難なため、4～5科目は押さえておきたいところ。 ● 過去問をできるだけ多く解く 過去に出題された問題の類似問題が多い。そのためできるだけ多くの過去問に触れることで、試験の傾向や難易度がつかめる上に、試験で使える知識も得られるため、おすすめである。体系的に学習を進めるよりは、過去問を解きながら不明箇所や知識補充を行う方が、学習が進めやすいかもしれない。	● 1次試験の過去問を活用した2次試験対策を 1次試験の対策をしっかりしておくことで、2次試験の対策にもつながる。2次試験特有の対策としては、記述式に対応できるようになるために、1次試験の問題の選択肢を自分の手で書けるように勉強するのが効率的。例えば、1次試験の過去問で「二次的自然」を正しく説明する選択肢を選ぶ問題があったとしたら、2次試験の対策では「二次的自然」とは何なのか、正解の選択肢を暗唱できるようにしておくことで、本番でも焦らず解答することができる。また、書いた文章の意味がしっかり通っているか、先生や友人に添削してもらうことで、内容の取りこぼしや文章構成を改善できる。
参考書		『資格試験のための農業農村工学必携』 『技術系スーパー過去問ゼミ』 『食料・農業・農村白書』	

デジタル区分

		1次試験(選択)	2次試験(記述)
概要	必須	基礎数学/情報基礎/情報と社会 計20題	計算機科学 / 情報工学(ハードウェア) / 情報工学(ソフトウェア) / 情報技術 計6問から2問を選択
	選択	選択必須問題(17題から10題以上)、選択問題(選択必須問題と選択問題の合計の解答数が20題となるよう、26題から選択解答)	
アドバイス		● 大学の基礎レベルの数学は身につけよう 大学の基礎レベルの数学（線形代数、解析、確率統計など）を身につけると、「基礎数学」だけでなく、「情報基礎」「情報と社会」においても役立つので、過去問を参考にしながら必要最低限の数学力は身につけよう。大学の基礎レベルの数学を身につければ、必要回答数の半分ほどを埋めることができる。 ● 問題は一通り目を通そう 範囲が広いので全てを対策するのは難しいが、対策していなくても解ける問題もある。時間に余裕はあるので一通り目を通して、自信のある問題で確実に得点を積み重ねよう。	● 過去問で傾向を把握 デジタル区分は設立されて間もなく範囲も広いため対策が難しいが、一部は2021年度以前の工学区分の出題内容とかぶるのでそれも参考に。 ● おすすめ選択科目 計算機科学、情報工学(ソフトウェア)→ソースコードの穴埋めが出されるので、AtCoderなど競技プログラミングを活用して基礎的なアルゴリズムの演習をするのがおすすめ。C言語が頻出なので基本的な文法は知っておこう。計算量や基本的なアルゴリズムの名前も問われるので基本を押さえよう。情報技術→範囲は広いが知識さえあればそれなりの得点源になる。基本・応用情報技術者試験を勉強するならついでに対策できるのでおすすめ。 ● 試験中に行き詰まったら 分からなくても問題文に答えがあったりするので、行き詰まったら出題を見直してみよう。
参考書		AtCoder、Qiitaなどの記事、資格試験の過去問(基本・応用情報技術者など)、各科目の大学で使う基本的な教科書、講義資料(ウェブ上に大学等がまとまった講義資料を公開していることも)	

法務区分

概要

この試験は、司法試験合格者のみが受験できる区分である。試験内容は、1次試験が基礎能力試験、2次試験が人物試験と政策課題討議である。1次試験の基礎能力試験は、知能分野24問、知識分野6問の計30問を2時間20分で解答する。なお、法務区分はこれまで秋に実施されていたが、司法試験日程の変更に伴い、2024年度から春試験として実施されることになった。具体的な試験日程等については、人事院ＨＰを要チェック。

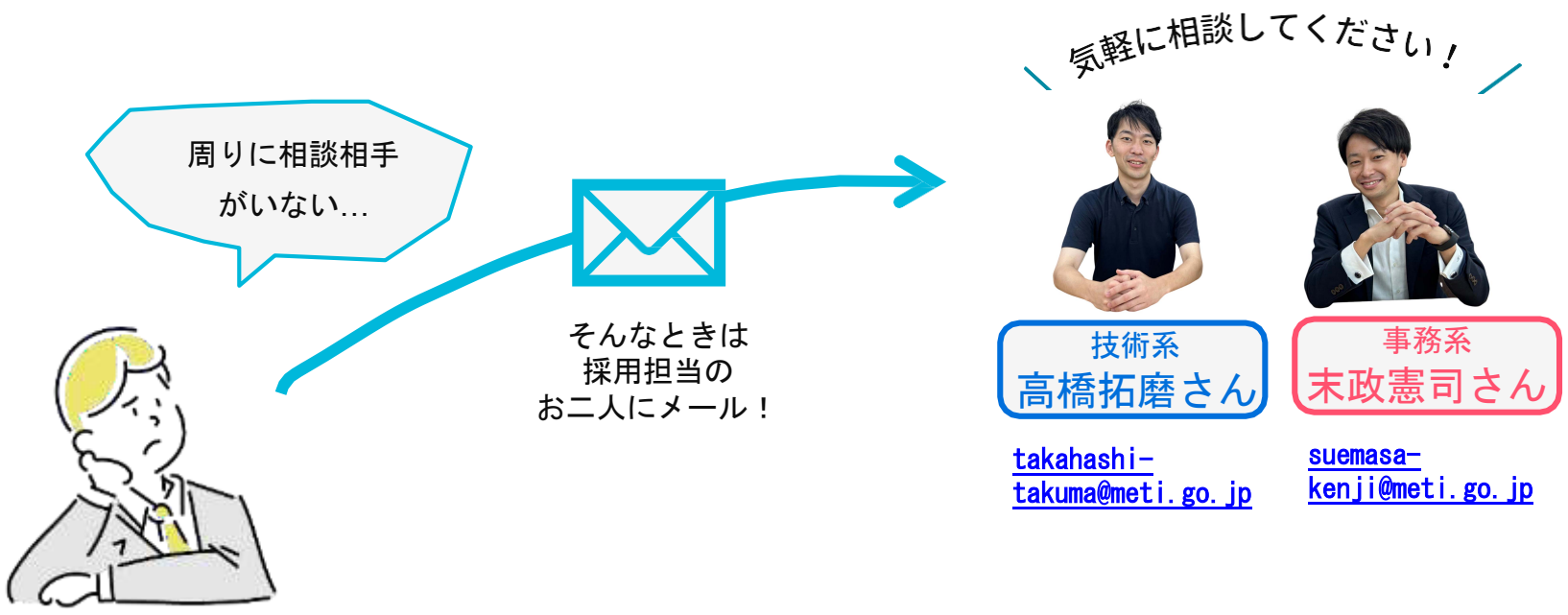
対策

司法試験合格は受験資格にすぎず、採用に当たっては、他の区分の受験生と同様に、政策への理解も問われていると認識することが大事である。その上で、なぜ法律家ではなく行政官なのか、そしてなぜその省庁なのかを、説明できる事が必要だ。それらの考えが、公表資料や業務説明会で学んだ知識に裏付けされているとよい。したがって、司法試験が終了する5月から、継続的に希望省庁の業務説明会に参加したり、資料を読んだりすることをおすすめする。

まとめ

1. まずは過去問や問題集を解いて全体を把握し、勉強計画を立てる。
2. 大学の授業や教材も活用できる。試験科目との関連性をチェック。
3. 問題をひたすら解いてパターンをつかみ、苦手分野を埋めていこう。

全区分ともまずは過去問を解いて全体感をつかみ、自分が対策を重点的にすべきところを内定者パンフレット等を参考にしながら考え、計画を立てるのが良い。また試験に関する情報収集は早めに行う必要がある。特に、大学の授業で賄える科目も多いため、勉強時間を有効活用するためにも履修との関係は早めにチェックするのがおすすめだ。

対策については、時間を意識した過去問演習、復習を徹底的に行い、パターンをつかむとともに足りない部分は問題集で埋めていくのが良い 。2次試験の記述に関しては、第三者に添削してもらうなどして工夫をしよう。

本パンフレットを活用し、自分なりの効果的な勉強法を見つけてほしい。そして、無事合格を果たしてもらいたい。みなさんと官庁訪問でお会いできる日を楽しみにしている。